

令和6年度 職員アンケート(自己評価)

質問	4+3	4	3	2	1
1 教育目標・計画.学校の教育目標や教育課題、教育計画について、教職員でよく理解している。	93.9	45.5	48.5	6.1	0.0
2 学校行事.学校行事(運動会等)を、児童にとって魅力あるものとするために、工夫・改善を行っている。	87.9	63.6	24.2	12.1	0.0
3 経営組織.学校運営に教職員参画意識が反映されている。	97.0	33.3	63.6	3.0	0.0
4 経営組織.校務分掌等で、仕事内容の分担がはっきりしている。	93.9	39.4	54.5	6.1	0.0
5 経営組織.報告・連絡・相談の連携がスムーズに機能している。	84.8	27.3	57.6	12.1	3.0
6 経営組織.問題意識や悩みについて、気軽に話し合えるような職場の人間関係ができています。	81.8	33.3	48.5	15.2	3.0
7 経営組織.教職員の服務規律への自覚が高い。	90.9	42.4	48.5	6.1	3.0
8 施設設備.校舎内外の施設・設備が有効に活用できるよう定期的に整備している。	75.8	24.2	51.5	21.2	3.0
9 地域との連携.近隣の学校との校種間連携の機会を設け、小中一貫教育を教育活動全般に生かしている。	75.8	30.3	45.5	21.2	3.0
10 地域との連携.よりよい教育活動を行うため、学校評議員制度等を活用している。	90.9	36.4	54.5	9.1	0.0
11 情報管理.公文書の収受・発送・保管に対する校内規則が確実に守られている。	97.0	54.5	42.4	3.0	0.0
12 情報管理.個人情報の観点から、児童の個人情報に関する管理システムが確立している。	93.9	51.5	42.4	6.1	0.0
13 保健安全.児童の心身の健康に関する指導、養護教諭・生徒指導主任・保健主事等の連携により日常的に行っている。	100.0	63.6	36.4	0.0	0.0
14 保健安全.感染症対応も含め、万一の災害等に備え、迅速で組織的な対応についての共通理解が図られている。	97.0	51.5	45.5	3.0	0.0
15 保健安全.学校は、安全指導など登下校の子ども達の安心・安全を守るための取組に積極的に取り組んでいる。	100.0	57.6	42.4	0.0	0.0
16 保健安全.楽しく運動に取り組む体育の学習の充実を図っている。	97.0	51.5	45.5	3.0	0.0
17 研究・研修.研究内容・方法を明確にした計画を作成している。	93.9	66.7	27.3	6.1	0.0
18 研究・研修.校内で他の教員の授業を積極的に参観している。	87.9	39.4	48.5	12.1	0.0
19 学習指導.学習に遅れがちな児童への対応等を含め、一人一人を大切に、指導法の工夫・改善に取り組んでいる。	97.0	42.4	54.5	3.0	0.0
20 学習指導.基礎的・基本的事項を明確にし、指導内容の精選、指導方法の工夫・改善を行っている。	97.0	51.5	45.5	3.0	0.0
21 学習指導.学校は子どもに学習内容がわかりやすく楽しい授業をしている。	100.0	48.5	51.5	0.0	0.0
22 学習指導.市の方針を理解し、外国語教育に積極的に取り組んでいる。	90.9	54.5	36.4	6.1	3.0
23 生徒指導・教育相談.いじめ・不登校等問題が起きたとき、報告・連絡・相談を踏まえて組織的に対応できる体制が整っている。	100.0	69.7	30.3	0.0	0.0
24 生徒指導・教育相談.家庭や関係諸機関との緊密な連携ができています。	100.0	57.6	42.4	0.0	0.0
25 生徒指導・教育相談.児童は担任以外の教員とも相談することができる。	93.9	54.5	39.4	6.1	0.0
26 生徒指導・教育相談.子どもは学校に喜んで登校している。	97.0	39.4	57.6	3.0	0.0
27 生徒指導・教育相談.子どもは学校で友だちと仲良く生活している。	100.0	48.5	51.5	0.0	0.0
28 生徒指導・教育相談.学校はあいさつのできる子どもを育てている。	90.9	21.2	69.7	6.1	3.0
29 キャリア教育.生き方指導に配慮しながら、児童の発達に応じた勤労観、職業観の育成に取り組んでいる。	87.9	30.3	57.6	6.1	0.0
30 道徳教育.年間指導計画に基づき、道徳の時間を要として、総合的に道徳教育を行っている。	97.0	45.5	51.5	3.0	0.0
31 道徳教育.道徳教育に必要な教材や資料を用意し、効果的に活用している。	87.9	36.4	51.5	12.1	0.0
32 道徳教育.学校は子どもに「思いやりの心」「豊かな心」を育てている。	100.0	45.5	54.5	0.0	0.0
33 特別活動.委員会活動や学級活動等で学校生活の向上・充実を図っている。	100.0	39.4	60.6	0.0	0.0
34 特別支援教育.特別な教育的ニーズを必要とする児童に気づき、学校全体で協力して指導・支援する体制が整っている。	97.0	39.4	57.6	3.0	0.0
35 学級・学年経営.学校経営方針に沿い、効果的な学年・学級経営をしている。	100.0	36.4	63.6	0.0	0.0
36 学級・学年経営.保護者と連絡や話し合いを的確に実施している。	100.0	54.5	45.5	0.0	0.0

○肯定的な回答・90%以上の項目が36項目中28項目。

【研究・研修、学習指導】（・アンケート項目 ※考察）

- ・研究内容・方法を明確にした計画を作成している。
- ・学習に遅れがちな児童への対応等を含め、一人一人を大切にしたい、指導法の工夫・改善に取り組んでいる。
- ・子どもに学習内容がわかりやすく楽しい授業をしている。
- ・基礎的・基本的事項を明確にし、指導内容の精選、指導方法の工夫・改善を行っている。

※理科の公開研究会を実施したこともあり、学校全体として、理科を中心に年間を通して工夫した学習指導を行うことができた。保護者アンケートからは「学習内容がわかりやすく楽しい授業」の項目で89.7%から肯定的な回答を得た。昨年度よりわずかに上昇しているが、研究教科に限らず、広く各教科での研修・授業改善の意識と機会をもち、継続していくことが必須である。

【生徒指導・教育相談】

- ・いじめ・不登校等問題が起きたとき、報告・連絡・相談を踏まえて組織的に対応できる体制が整っている。
- ・家庭や関係諸機関との緊密な連携ができています。
- ・児童の心身の健康に関する指導、養護教諭・生徒指導主任・保健主事等の連携により日常的に行っている
- ・学校は子供に「思いやりの心」「豊かな心」を育てている。

※今年度の生徒指導のテーマとして、予防と未然防止、早期対応に重点を置き、教育相談の実施方法を変更するなどよりきめ細かく児童の変化に対応できるようにした。各種アンケートやいじめ撲滅キャンペーン等の活用や、保護者への連絡・面談等を充実させた結果、保護者アンケートの「学校は、子どもの特性に合わせた手立てを相談・支援していますか」の項目で肯定的な回答が昨年度より増加した。予防に重点を置くことできめ細かな対応に繋がることから、次年度以降も取組を継続し、個を大切にしたい生徒指導をより充実させていきたい。

【学校学年経営】

- ・学校経営方針に沿って、効果的な学年・学級経営をしている。
- ・保護者と連絡や話し合いを的確に実施している。
- ・学校運営に教職員参画意識が反映されている。

※各主任により、学校行事や生活指導等に学校経営方針が反映された企画がなされ、ねらいや意義を明確にして教育実践を行うことができた。昨年度は「学校運営に教職員参画意識が反映されている」の項目は肯定的な回答が80%を切っていたが、今年度、教職員一人一人の特性を生かせるように校務分掌を見直し、対話を重視したことで、教職員が参画意識をもって学校運営にあたることができた。一方で、保護者との連携については、全体としてはよくできているが、初期対応が遅れて問題が大きくなるのが今年度もあり、改めて「初動と連携の重要性」を共通認識し、迅速な連絡や面談等が常時できるようにしていきたい。

●肯定的な回答が80%を切っている項目が2項目（昨年度は8項目）。

- ・校舎内外の施設・設備が有効に活用できるよう定期的に整備している。
- ・近隣の学校との校種間連携の機会を設け、小中一貫教育を教育活動全般に生かしている。

※昨年度ここで挙げた項目に校務分掌（副主任のかかわりが少なく、主任が感じる負担感が大きいことが課題）があったが、見直しを図ったところ、大きく改善し、今年度は肯定的な回答が93%と大きく増え、学校運営の参画意識の向上につながった。このことから、あと2つの項目についてはより一層重点的に取り組む必要がある。

1点目の施設整備については施設の老朽化が激しいこともあり、職員の手では十分な整備が難しい部分もあるが、次年度もできる範囲での活用を図るようにするとともに、保護者の協力を得ながら環境整備に力を入れていきたい。

2点目、近隣の学校（四街道西中）との異校種間連携の機会を設けられるよう、その方法を立案し、校内での調整を図る必要があったが、公開研究会に向けての授業検討会の増加や授業研究会の実施などにより調整が進まなかった面がある。日常の授業や学校の様子を見に行ったり、短時間の訪問を設定したりするなど、実施可能な方法を検討・実践するようにしたい。

△肯定的な回答が80%を超えているが、さらに向上させたい項目

- ・校内で他の教員の授業を積極的に参観している。
- ・学校はあいさつのできる子どもを育てている。
- ・道徳教育に必要な教材や資料を用意し、効果的に活用している。

※校内授業研究以外の日常的な研修として、自クラスが専科授業の際に、担任が自身の授業の課題点を明確にし、他の教員の授業を参観するなどの「相互授業参観」を、積極的に実施できるような工夫をする。

※挨拶については、教職員からの肯定的な回答は高くないが、保護者・地域からは肯定的な回答が比較的高い。例年この傾向が見られるが、地域の評価との差がどこにあるのか、その原因を明確にし、指導している挨拶の意義や目的を改めて検討・共通理解していく必要がある。

※道徳教育については、価値項目や学習のねらいを明確にして授業実践をすることが、教材や資料の効果的な活用、ひいては道徳性の育成につながることから、個人で授業を組み立てるのではなく、学年で分担・協力して授業の進め方や方法の検討、資料作成をし、それを次年度も引き継いでいくサイクルの確立を目指したい。